

指と親指の指頭を合わせるのに対して両指の指頭が合わず「食い違ふ」意味を表わす。

相応 「叶う」「適する」と同じ手まね。

造花 紙造る—爐—花。

壮健 「健康」と同じ手まね。

相互 「互いに」と同じ手まね。

葬式 死—拜む—式。

想像 「思い出」と同じ要領で表わす。

相談 「打ち合わせる」と同じ手まね。

そうである（と云うことである） 五指の

指頭を集め合わせた右手を右耳に向ってぱつと五指を開く。話とか噂が耳に入ってきて来ると云うこと。

相当 「適當」と同じ手まね。

聰明 「賢い」と同じ。

僧侶 左手で拜む真似をして、右手人差指で木魚或は鉦を叩く身振りをして—男性。

草履 五指の指頭を前方にさし掌を上に向

けた左手の上に五指の指頭を前方にさし掌を下に向けた右手をびったりと重ね合わせて、僅かに叩たく。左手掌を草履として、右手掌を足裏として、僅かに叩たき合うのは歩行の時の足と草履の状態を表わしたもの。

即位 五指の指頭を右にさし、掌を上に向けた左手（位）の上に、男性を表わした右手を下から載せる。

賊 五指の指頭を左にさし掌を内側にした右手で眼の上（額）を被おい、五指の指頭を右にさし掌を内側にした左手で眼の下（鼻の上）を被うい、覆面を表わす。

そして 「在る」の手まねのように、五指の指頭を上になしし掌を前に向けた右手を前方右斜めにさし出し僅かに前後に動かす。

祖先 先ず、父母を表わした右手をその位置にとどめ、その上に左手で男女を同時（親指と小指）に表わしたのを、その手首を左右

にこまかく動かしながら徐々に上昇させて行く。

育てる 「愛」の手まね、即ち左手五指を彎曲させ掌を下向け、その手甲の上を右手掌で愛撫させるを運動をそのまま続けながら徐々に両手の位置を上へあげて行く。愛撫して成長させて行くこと。

卒業 両手で証書を持つ心持ちで眼の上辺りに頂く身振。

卒倒 眩い——倒れる。

猜む 「嫉妬」と同じ手まね。

その上に 「更に」「一層」と同じ。

その前(時間) 五指の指頭を前方にさし掌を右側にした左手に向って、五指の指頭を左にさし掌を上向けた右手を接近させて行って左手掌に着くばかりになってその右手の五指を曲げて、右へ引き戻す。「その時間」は左手で表わし、「前」は右手で表わす心得。

蕎麦 褐色(茶色)——うどん。

傍 「近い」の手まねを両手手首を左胸脇にびったりとつけてする。

祖父 父の父として表わす。先づ父の手まねをして、その親指を左の手の人差指にて軽くなで降して(頬を人差指でなで降す肉親を意味するのになぞらえて)その手の親指(男性)を右の親指(父)より高い目にさし上げる。

母方の祖父の場合、この要領で母の父とすればよい。母の小指を左の人差指でなで降し、母(小指)

祖母 父の母として表わす。父の手まねをして、その親指を左の手の人差指でなで降して、その手の小指(女性)を右の親指より高い目にさし上げる。

母方の祖母は、母の母とすればよい。

祖父 父方の場合父の両親(親指の父と